コンクリート診断士試験合格体験記〈上〉

遠回りは一番の近道

浅岡　恵子

私は土木構造物の点検、調査、試験、診断業務を行う株式会社シーテックという会社に所属しています。業務は、現場調査で得られた情報をもとに変状図の作成等、報告書に使用する資料作成をメーンに調査員のサポートをしています。

高度経済成長期からストックされてきた膨大な社会資本の維持管理が急務とされるなか、コンクリート診断士の重要性は認識していました。当社はコンクリート構造物を主に調査していますので、この資格を取得することで少しでも会社や社会に貢献できると考え、挑戦を決意しました。

診断士は、コンクリート構造物の診断における幅広い専門知識と判断力が求められる高度な資格です。そのため、資格取得に際し、現場調査経験がほとんど無い状況での挑戦には不安がありました。幸い会社でセメント新聞社主催の「短期攻略セミナー」を教えて頂き受講することにしました。結果から申しますとセミナー受講とセミナーで購入した参考書が大いに役に立ち、セミナーに参加できたことが合格につながったと思います。

セミナーでは、択一問題と記述問題について講師の方がわかりやすく解説してくださり、セミナー時に配布された資料も大変参考になりました。内容は、重要な問題がピックアップされており過去の問題傾向もあわせて説明頂いたことで勉強への取り組み方が具体化できました。また記述問題は、設問に対してわかりやすく記載する重要性や過去の傾向、肝要なキーワード、時間配分等詳細なアドバイスが大変ためになりました。実際の試験で使用する用紙での例題に取り組めたことは、貴重な予行練習になりました。後日添削して頂き自分の足りない部分を再確認できたことは、勉強に対してのモチベーションにもつながりました。

個人での勉強方法は、セメント新聞社の参考書で対応しました。過去問題集はいくつか比較検討しましたが、分野別に取り組めること、練習問題の解説がわかりやすいこと、記述問題の模範解答と解説が充実していたことを理由に決めました。

択一問題は、分野ごとに重要な暗記事項を意識しながら繰り返し問題を解きました。理解できた問題は除き、徐々に問題数を減らして理解度を深める努力をしました。

記述問題については、A問題の診断士としての資質を問う問題と、B問題は建築と土木のどちらかを選択しますが、私は土木に絞って勉強しました。A問題は、ひたすら過去の問題と解説を読み、重要と思われる文章は記述して定着するように心掛け、自分なりの診断士の資質については、ある程度考えをまとめ準備しました。B問題は模範解答を繰り返し読み、重要なキーワードや調査方法、劣化予測や評価、判定の知識を理解し記述できるように「書く」ことを意識しました。

コンクリート診断士の勉強は、簡単なものではありませんでしたが、諦めず繰り返し問題を解くことで少しずつですが、確実に知識が増えていきます。遠回りは一番の近道です。私にとってセミナーを受講したことと参考書を手に取ることができたことは大変幸運なことでした。

はじめはわからないことが多く辛いこともありますが、努力した結果、合格通知を受け取った時の喜びはひとしおです。皆さんも、諦めずぜひ前向きに挑戦して下さい。